

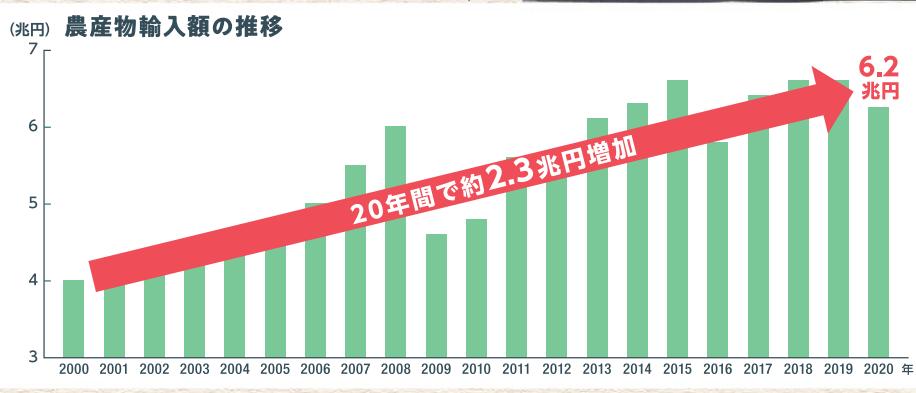
加速する「食」のグローバル化

# 有事にも食料供給の安定をはかるために

なぜ今?  
国消国産

## 農産物の輸入額は大きく増加

日本の食料自給率(カロリーベース)は38%と低迷していますが、2000年からの約20年間で、農産物の輸入額は約2.3兆円も増え、2020年には約6.2兆円輸入しています。一方で、輸出額は同じ期間に約4,900億円増加し、2020年の輸出額は約6,600億円となっています。



## 「食」のグローバル化が日本の食料供給に与える影響

近年、農産物市場を含めた経済連携協定の発効がすすみ、「食」を取り巻くグローバル化が加速しています。これらの経済連携協定は、私たちの食生活に豊かさを与えてくれる一方で、日本にとっては食料の輸入増加を促す可能性があり、それは結果として、さらなる食料自給率の低下を招く可能性もあります。

### 近年発効した経済連携協定

2018年 発効 TPP11	2019年 発効 日EU・EPA	2020年 発効 日米貿易協定
----------------------	------------------------	-----------------------

だから今!  
国消国産

## 「国消国産」で、輸入に依存せず食料供給に安定を

食料自給率が低い状態で万一輸入がストップしてしまったら、国内の食料需要を満たせるのか。コロナ禍で実際に、約20か国が食料の輸出規制に踏み切りました。幸いにも、それらの国から日本は食料を多く輸入していなかったため、大きな影響はありませんでしたが、**輸出国もいざ**という時は自国内の供給を優先する傾向がわかりました。「食」のグローバル化がすすむ中だからこそ、「國民が必要とし「消」費する食料は、できるだけその「國」で生「產」するという「国消国産」をすすめていくことに、大きな意味があります。

### ここがポイント!

- 日本の農産物輸入は増加傾向で、2020年の輸入額は6.2兆円にのぼる
- 「食」のグローバル化がすすみ、さらなる食料自給率低下の可能性
- 輸出国もいざという時は自国内の供給を優先、「国消国産」で食料供給に安定を



耕そう、大地と地域のみらい。JAグループ